令和７年度　学校評価実施報告書

幼稚園名（中京もえぎ幼稚園）

教育目標

たくましく心豊かな子どもの育成

～主体的に環境に関わり、夢中になって遊び込む子どもの育成をめざして～

年度末の最終評価

自己評価	**教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し** 子どもの「やってみたい」を引き出す援助や環境構成を検討してきた園内研究、架け橋プログラムの研究、満３歳児の育ちの研究の３つの研究をうまく連携させて、教員全員で取り組み、子どもの育ちにつなげていくことができた。今後も安全な環境の中で、子どもたちが安心して主体的に環境にかかわり、遊び込むことができるように取り組んでいきたい。
学校関係者評価	**学校関係者による意見・支援策** 地域とのかかわりや他の就学前施設や小学校との連携がますます進んできていることで、子どもたちは生き生きと育っていることがわかる。安心安全ということはとても大切だが、今までの質の高い保育を保ち、さらに子どもたちが主体的に遊びを進めていくことができるように、また保育者が創意工夫を思う存分できる環境を今後も大切にしていってほしい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和７年 10 月 9 日（木）	学校運営協議会もえぎティンクル
最終評価	令和８年２月 26 日（木）	学校運営協議会もえぎティンクル

（１）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

・いろいろな遊びに興味や関心をもち、一人一人が“やってみたい”と遊び出す姿や、個の“やってみたい”がつながり友達と遊びを広げていく姿を捉える。
・遊びが生まれ、つながり、広がり、深まるための教師の援助と環境構成を探っていく。その際、写真や動画で記録し、子どもの姿をドキュメンテーションなどにより可視化する。
・毎月１回、教員で園環境を見直したり、写真をもとに子どもの姿を共有したり、エピソード研修をしたりする。

（取組結果を検証する）各種指標

・子どもの姿の変容や日々の保育実践
・子どもの“やってみたい”という思いについての保護者アンケート結果
・外部への研究成果の発信回数や外部からの意見

中間評価

各種指標結果

・事例より、個々の「やってみたい」が生まれ、教師の援助により発展していく様子が見られ、更に子どもの興味関心が深まり、集団の育ちに向かうための援助について検討することができた。

・保護者アンケート「お子さんは幼稚園生活を通して“やってみたい”という思いが生まれて友達とつながり。思いが広がったり深まったりしていると思いますか」大変そう思う６３％そう思う３６％あまりそう思わない１％

自己評価	分析（成果と課題） 子どもの「やってみたい」思いに関する保護者アンケートは高い評価が得られ、一定評価できるが、教職員のアンケートでは保護者よりも低い評価となっている。子どもの「やってみたい」という思いをもっと引き出せる、もっと援助の方法があったのではないかと感じていることがわかり、教員自身も納得できる保育の成果をあげるために援助や環境、家庭との連絡等の在り方について検討していく必要がある。
	分析を踏まえた取組の改善 園内研修、学年会、プチ園研を充実させ、本音で語り合い、担任と子どもの関係を第一にしながら、全教員で全園児を見ていく体制を強化し、保護者にも取組を理解していただくように努める。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・子どもの姿の変容や日々の保育実践 ・子どもの“やってみたい”という思いについての保護者アンケート結果 ・外部への研究成果の発信回数や外部からの意見
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・子どもの生活の説明を受け子ども自ら「やってみたい」と思って幼稚園生活を楽しんでいることがわかった。開かれた教育課程と言われている中、運営協議会でも「伝統文化」等の分野で協力していけるのではないか。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果 ・子どもの姿の変容や日々の保育実践 ・子どもの“やってみたい”という思いについての保護者アンケート結果 ・外部への研究成果の発信回数や外部からの意見	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 子どもの「やってみたい」思いに関する保護者アンケートは前期とほぼ同等の回答で高い評価が得られた。教員の評価も前期よりも「大変そう思う」の割合が高くなり、子どもたちの「やってみたい」が現れているエピソードの研修を重ね、様々な育ちと教師の援助の成果が実感できている結果となった。しかし、３％ほど保護者アンケートで「そう思わない」回答があったので、さらに一人一人の育ちについて援助の方法や家庭との連携、発信方法を検討していく。 子どもの「やってみたい」を育てる援助や環境構成を工夫していく中でも安全について見直していく必要性がある。
	分析を踏まえた取組の改善 園内研修、学年会、プチ園研を活発に行い、本音で語り合い、担任と子どもの関係を第一にしながら、全教員で全園児を見ていく体制をうまく運営してきたが、さらに保護者にも取組を理解していただくように努めていく。 環境の安全点検だけでなく、保育中の安全について強化していく。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 子どもの様子を詳しく伝えてもらう中で、生き生きと幼稚園生活を送っていることがわかる。先生方の工夫により子どもたちの「やってみたい」という意欲が高まっていると思う。家庭に理解していただけるような発信の仕方が必要になってくる。保護者の理解という点で協力できることを考えていきたい。 安全な環境は大切だが、あまり強化してくことは保育の低下につながらないか。教員が豊かな保育を実践できるようにしていってもらいたい。

（２）幼保小の架け橋プログラムの推進に関して

具体的な取組

- 進学前後に小学校と子どもの様子を伝えあい、子どもが安心して小学校生活を送れるように支える。
- 地域の保幼小を互いに参観し、研究保育・授業を行うことで、教員同士が互いの教育の理解を深める。
- 地域の幼保施設と合同で園外保育に出かけたり互いの園で遊んだり授業に参加したりして、子どもたち同士の継続的な交流を行う。
- 地域の小規模保育園と連携し、０～２歳の保育との連携を行う。

（取組結果を検証する）各種指標

- 保育参観（参加）・授業参観を計画的に行い、相互の教育の理解。
- 架け橋期のカリキュラムの実践・検証・見直し状況。
- 近隣の就学前施設や小学校への発信・交流状況
- 「架け橋プログラム」の取組についての保護者アンケート結果

中間評価

各種指標結果

- 地域の保育園の先生方と「にじっこ」の会合を行い、今の子どもたちの様子を共有し、年間の計画を立てることができた。同様に、就学前施設と小学校の計画も架け橋主任を中心にたてることができた。
- 夏の研修では、小学校、保育園、幼稚園の教員・保育士が一堂に会し、京都市教育委員会架け橋スーパーバイザーの京都教育大学教授古賀松香先生のご講演を元に互いの意識を高める研修ができた。
- 園内研修や研究保育に小学校より来ていただき、幼稚園教育について理解を深めていただくことができた。
- 保護者アンケート「幼稚園は小学校や保育園とともに積極的に「架け橋プログラム」に取り組んでいると思いますか」大変そう思う６０％そう思う３７％あまりそう思わない２％そう思わない１％

自己評価	分析（成果と課題） ・新しく保育園の仲間を迎える中、これまでの架け橋の取組を踏まえ、更にスムーズに進めていけるように架け橋主任が密に連絡をとり、年間で先生同士が最大限学び合える計画を立てることができた。 ・実践交流やカリキュラム見直しについては、後期に多く計画している取組の中で行っていかなければならない。 ・新しい保育園とも架け橋の仲間としての意識をもち関わっていくことができた・

	・今後の取組を更に発信し、保護者や地域の理解を得ていけるようにしていう必要がある。 ・御所南小学校だけでなく、地域の四校一園の取組がわかるように、各校の月便りを掲示したことは保護者の地域の学校への関心を高めたのではないか。
	分析を踏まえた取組の改善 ・取組の発信の方法を探り、理解を広げる。 ・小学校、保育園と互いに状況を理解し合いながら、持続可能な交流や学びを探っていく。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・ 保育参観（参加）・授業参観を計画的に行い、相互の教育の理解。 ・ 架け橋期のカリキュラムの実践・検証・見直し状況。 ・ 近隣の就学前施設や小学校への発信・交流状況 ・ 「架け橋プログラム」の取組についての保護者アンケート結果
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・先生同士が近く、大変よく勉強されていることがわかる。就学への子どもの不安も解消されているように思う。今連携している御所南小学校に行かない子どもたちにも小学校というものが想像しやすく同じような効果があると思う。しっかり続けていってほしい。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果 ・ 小学校の参観日や幼保小連絡会に積極的に参加し、子どもの姿を通して意見を交わすことができた。授業については、参観日だけでなく日常の授業にも参加し、普段の１年生の様子から、保育の在り方について考える機会とした。 ・ 架け橋主任が緊密に他園や小学校との連絡を取り、スムーズに交流や連携ができるように取り組んだ。 ・ 幼保施設の「にじっこ」の会で、エピソード研修を実現し、互いの保育について話し合うことができた。 ・ 保護者アンケート「幼稚園は小学校や保育園とともに積極的に「架け橋プログラム」に取り組んでいると思いますか」大変そう思う６２％そう思う３５％あまりそう思わない３％そう思わない１％	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 架け橋主任が積極的に小学校や保育園に声をかけ、関係を作っていったことが今年度の架け橋の取組をスムーズに進行することにつながった。主任の役割の大切さが感じられた。年度当初に１年のおおまかな計画を立てることができたことも、有効で、今後も持続可能な取組にしていくためには大切な要素だと思われる。
	分析を踏まえた取組の改善 大人の連携が特に大切であるという共通理解のもと、取り組んできたが、さらに他施設の子どもたちと相手意識をもってかかわることにも注目したい。また、保護者アンケートに年長児のアンケート結果で評価が高い反面、「他の小学校に上がる子どもにとっては逆効果」との意見も見られた。他学年の保護者への啓発の仕方も考えていきたい。
学校関係者	学校関係者による意見・支援策 架け橋の取組が文部科学省より表彰を受けるような質の高いものになっていることがとても素晴らしいと思う。中京もえぎ幼稚園が地域の子どもたちの育ちをつなぐ役目を果たしているのではないか。

評価	

（３）預かり保育に関して

具体的な取組 ・日々保育を振り返り、個々の興味関心に応じ、やりたいことがゆったり楽しめる環境を整えたり、子どもの興味や発達、時期や季節等から遊びに新鮮さや変化も取り入れたりし年間を通して内容の工夫をする。 ・未就園児クラス（満３歳児）の預かり保育の提供を実施する。 ・担任、預かり保育担当教員、家庭との連携を密にとる。
（取組結果を検証する）各種指標 ・　預かり保育での日々の子どもの姿の振り返りと指導計画の見直し ・　担任や預かり保育担当教員との連携状況や聞き取り ・　預かり保育の姿からの発信状況 ・「預かり保育」についての保護者アンケート結果

中間評価

各種指標結果 ・参加人数も多く、一人一人の欲求に対して十分に叶えることができないことも１学期は多かったができうる限りの対応に努めてきた。 ・保護者参加の催し等も募り、ダンス体験やテニス体験、おもしろサイエンス等を催し、生活に変化をつけることができた。 ・満３歳児の預かり保育も１日に６名参加する日がある等、認知されてきている。 ・保護者アンケート「預かり保育での遊びを楽しみにしていますか」大変そう思う３６％そう思う４６％あまりそう思わない１３％そう思わない５％ 自由記述「おやつの内容の検討」	
自己評価	分析（成果と課題） ・３歳児の参加も多く、基本的生活習慣の支えも預かり保育の中で大きな仕事となってきており、対応がなかなか十分にできない面もあったが、ボランティアさんの配置を工夫したり、教員が参加したりしながら少しずつ落ち着いて預かり保育の時間が過ごせるようになってきた。 ・週２回のもえぎティンクル絵本読み聞かせボランティアさんによる読み聞かせに加え、保護者の方の預かり保育参加により普段では味わえない体験をすることができた。 ・担任と預かり保育担当者との連絡は意識して密にとるようにできた。 ・玄関掲示やHP発信に努めたが、発信を増やしていき、預かり保育の様子が伝わっていくようにしていく必要がある。 ・満３歳児の預かり保育への参加が増えてきており、この取組の一定の評価がされているが、場所の確保、人の配置について再検討していかなければならない。
	分析を踏まえた取組の改善 ・個々に対応した午睡の見直しや環境の見直し等を行う。 ・子どもの興味にあった玩具や遊びについての検討をする。 ・預かり保育の内容の発信 ・おやつについては、アレルギー対応や予算等の点で難しいが検討していく。

	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・　預かり保育での日々の子どもの姿の振り返りと指導計画の見直し ・　担任や預かり保育担当教員との連携状況や聞き取り ・　預かり保育の姿からの発信状況 ・「預かり保育」についての保護者アンケート結果
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・勤めていても中京もえぎ幼稚園の教育を受けることができるのは、預かり保育があるためで、他の項目よりも評価が低いようだが、任せきりでなく参加する人もみんなで協力して取り組んでいく気持ちが大切なのではないか。 ・満3歳児保育は今とても重要で「自己発揮できる」２歳児を育てるように頑張ってほしい。

最終評価

	（中間評価時に設定した）各種指標結果 ・保護者の方から後期も積極的に申し出があり、ダンス体験やテニス体験、おもしろサイエンス、救急救命講習等を催し、生活に変化をつけることができた。また保護者同士のつながりも広められる事例も見られた。 ・預かり保育の様子を玄関での掲示やHPやInstagramなどで発信し内容の理解に努めた。 ・満3歳児の預かり保育も来年度の入園者が多く参加するようになり、登録者も10名を超えた。 ・保護者アンケート「預かり保育での遊びを楽しみにしていますか」大変そう思う４３．７%そう思う４３．7%あまりそう思わない７．８%そう思わない４．８%前期より改善がみられる。
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・積極的に保護者や地域の方へ参画を求め、多くの方にご協力いただけたことが、評価が高まる要因になったのではないかと思われる。 ・参加者が大変多く、子どもたちの疲れ具合等によってトラブルやケガの対応も余儀なくされることが多く見られた。その都度、管理職や担任等と連携して、子どもたちへの対応や保護者への伝達等を丁寧に行ってきたが、今後も子どもの様子を見ながら、幼稚園全体で対応していくことを共通理解していく。 ・今年度と同様に保護者や地域の方々に協力していただき、マンネリ化しないように努める。 ・担任と預かり保育担当との連携を常に意識して行う。
	分析を踏まえた取組の改善 ・子どもの興味関心に合った取組と玩具遊具等の教材研究 ・担任と預かり保育担当者、保護者の連携 ・預かり保育の内容の発信
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 前期よりも評価が上がっていて、工夫の成果がでているのではないか。保護者の参画があることはとても良いことだと思う。

（4）子育ての支援に関して

具体的な取組

・　子育て相談であるほっとちゃっとを行ったり、家庭教育講座等を開催したりし保護者の学びや情報交流の場を設定する。
・　未就園児クラス（満３歳児）への預かり保育提供の実施を始める。
・　未就園児の教育相談として、運営協議会や地域の方、元保護者・現保護者の方など子育てについての不安や相談、体験談、情報提供等を受けたり、話したりできる場作りや企画の提供を行ったり、未就園児クラスと在園児とのふれあいの場を設定し、子どもの育ちや発達を知る機会を設定したりする。また、保護者同士のつながりづくりに努める。
・　地域の小規模施設や就学前施設との連携に取り組み、保育参観を行い、乳児の育ちを学び子育て支援に活かす。

（取組結果を検証する）各種指標

・　未就園児教育相談への参加者数（親子参加・満３歳児参加）および意見
・　未就園児教育相談担当者への聞き取り
・　小規模保育事業所との連携状況
・　未就園児教育相談についての発信状況
・「未就園児の教育相談」についての保護者アンケート結果

中間評価

各種指標結果

・京都市「親支援プログラム」ほっこり子育ての一環で行っている誕生会後の「ほっとちゃっと」では「いつくしむ」というテーマで毎回開催することができた。預かり保育利用者が多い中、降園時間が合わず、保護者同士が話をする機会がなくなっている中、井戸端会議的な話ができる機会として開放し参加者の増えてきている。
・保育士経験のある未就園児教育相談担当者に、満３歳児にとっての環境構成について聞き取りを行った。
・　小規模保育事業所の先生方と連絡を取り合ったり、行き来し合ったりする中で、幼稚園の教育について関心をもっていただき、小規模保育事業所の保護者の方にも伝わるようなってきた。
・未就園児教育相談についての発信はHP、Instagram、チラシの配布によって行った。
・保護者アンケート「教育相談、満３歳児預かり保育は地域の子育て支援の場になっていると思いますか」大変そう思う64%そう思う３５%あまりそう思わない１%

自己評価

分析（成果と課題）

・ほっとちゃっとの参加者は去年よりも増加し、アンケートをとっても参加してよかったとの回答が多かった。できるだけ自由に話ができる機会としていきたい。
・満３歳児にとってふさわしい環境を共に考えることができた。特に、身辺自立に関連する環境（靴の置き場所、かばんや水筒の置き方など）について、より実態に応じた環境にすることができた。
・小規模保育事業所の先生方への働きかけが幼稚園への理解や親しみつながりつつあり、子どもたちも幼稚園に遊びに来ることでよい交流ができつつある。続けていきたい。

分析を踏まえた取組の改善

・場所の確保、人の配置について再検討していく。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

・　未就園児教育相談への参加者数（親子参加・満３歳児参加）および意見
・　未就園児教育相談担当者への聞き取り
・　小規模保育事業所との連携状況

	・　未就園児教育相談についての発信状況 ・「未就園児の教育相談」についての保護者アンケート結果
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 地域に２歳児以下がいなくなったと言われているが、幼稚園という教育の場を欲している未就園児はいるので、この豊富な教育の場で親子ともに安心して子育てが学べる場として大事に運営していってほしい。小規模保育事業所との良い関係について聞き、地域の子どもが健やかに育っていく基本となるようでうれしい。

最終評価

	（中間評価時に設定した）各種指標結果 ・後期もほっこり子育ての一環で行っている誕生会後の「ほっとちゃっと」は参加者が増え、保護者同士がおしゃべりを好きにできる機会と位置付けて行ったことで、情報交換等も積極的にされて、参加に満足される会となった。 ・京都市教育員会指定「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた実践研究事業」において「“やってみたい”が生まれる・つながる・広がる・深まる～満３歳児の“やってみたい”を育む環境や援助、子育て支援について考える～」をテーマに研究を進め、保育公開・実践報告会を行い、研究成果を発信した。また２歳児の発達や育ちについて学ぶことができた。 ・教育相談の遊びの日に参加される保護者同士を意図的につないでいくことで、悩みの共有をしながら、子育ての不安感が軽くなったという感想が聞かれた。 ・小規模保育事業所の研修に講師として参加したり、子どもたちの遊び場として幼稚園を開放したり、３歳児との交流等を行い、大人同士の関係性も深めることができた。
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 数年小規模保育事業所へ働きかけを続けてきたが、今年度はさらに関係性が深めることができ、馴染みの幼稚園として、入園を希望される方も増えた。 満３歳児を受け入れ触れ合う機会を意図的に持っていく中で、在園児の育ちにもつながった。 預かり保育の参加が多い中、保護者同士がかかわる機会が極端に減っている状況で、ほっこり子育て広場は少人数ではあるが、ゆっくりと保護者同士が語り合える希少な場としてこれからも大切に取り組んでいきたい。
	分析を踏まえた取組の改善 未就園児は発達的に多くの大人の目がないと危険な状況が多くみられる。安全という観点を常にもち、無理のない運営を探っていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 運動会や生活発表会の後に、未就園児や小規模保育事業所の子どもたちを招待し、とても多くの子どもたちが在園児とかかわって楽しむ会を開いていることは、地域の子育てをみんなでしている意識につながっているのではないかと思い、とても良いと思う。

（５）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

具体的な取組 ・　幼稚園便りやHP、Instagram等で幼稚園教育や幼稚園の活動、取組を発信する。 ・　学校運営協議会の方や地域の方をゲストティーチャーとして幼稚園運営に参画していただき子ど

もや保護者と地域の方とをつなぐ。
・　地域の小規模保育施設や就学前施設、小学校とのつながりを広める。

（取組結果を検証する）各種指標
・　幼稚園教育の発信状況
・　学校運営協議会による幼稚園教育への参画状況と取組の発信状況
・　学校運営協議会による学校関係者評価からの意見や改善状況
・「学校運営協議会（もえぎティンクル)」についての保護者アンケート結果

中間評価

各種指標結果
・幼稚園便り、HP,Instagram 等で発信した。
・絵本ボランティアさんによる週 2 回の預かり保育での読み聞かせ、祇園祭のお話会、お茶体験などを実施した。
・保護者アンケートを踏まえて、幼稚園の現状や改善について意見のいただいた。
・保護者アンケート「学校運営協議会もえぎティンクルの活動は幼稚園の経営を豊かにしていますか」大変そう思う６１％そう思う３９％自由記述「有意義な活動をしていただいているのに、もえぎティンクルって何？という保護者がありもったないと思う。もう少し活動内容を発信してもよいと思う。」

自己評価

分析（成果と課題）
・発信に努めているが、今後も意識して取り組みたい。
・幼稚園の取組にいつも協力的な姿勢でいてくださるので、その都度の依頼がしやすく、また例年行っている取組も安心して行うことができる。取組ごとに発信に努めたが学校運営協議会の取組ということがなかなか認識されにくい発信方法を更に工夫する必要がある。
・保護者アンケートでは学校運営協議会の取組がわかるような問いにしたので、ある程度評価が高くなった。

分析を踏まえた取組の改善
・学校運営協議会の取組がわかりやすく認識してもらえるような発信方法を検討する。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標
・　幼稚園教育の発信状況
・　学校運営協議会による幼稚園教育への参画状況と取組の発信状況
・　学校運営協議会による学校関係者評価からの意見や改善状況
・「学校運営協議会（もえぎティンクル)」についての保護者アンケート結果

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策
保護者の方にもティンクルの活動が認識されてきているのがうれしい。更に取り組んでいく。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果
・幼稚園便り、HP,Instagram 等で積極的に発信した。
・もえぎティンクルの会議の開催や預かり保育での読み聞かせやお茶体験について玄関に写真で掲示するなど発信をした。

・保護者アンケートでは「もえぎティンクルの活動が幼稚園の経営を豊かにしている」に対し「大変そう思う」評価が前期よりも高くなった。
・もえぎティンクルや地域の方々に、園児の減少等に対して共に考えていただき、励みになった。
・地域の方々にお世話になって竹間公園の畑を活用させていただいたことで、保育が豊かになり、地域の方々への親しみも深まった。

自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 長年続いてきた預かり保育での５歳児のお茶体験の先生を探していたところ、もえぎティンクルの理事の方の紹介で今年度も体験することができた。 もえぎティンクルの方々にお世話になっている活動等を伝えていくようにしたことで少しずつではあるが、認識が高まっている。 地域の方々をポップコーンパーティに来ていただく等、子どもの思いを地域の方々につなげる取組ができた。
	分析を踏まえた取組の改善 さらにもえぎティンクルの方々のご協力や活動が、子どもたちの生活を豊かにしていることを発信していく。 地域の方々とのかかわりについても、連絡を密に取りながらさらに進めていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 もえぎティンクルの働きかけがあってお茶体験が継続して体験できるようになったことはとてもよかった。これからも協力していきたい。公園の畑での収穫等も街中の幼稚園であるので、とても有意義だと思う。

（６）教職員の働き方改革について

重点目標
- 組織的な園運営と勤務時間への意識改革
- 時間制限だけではなく、働き甲斐、働きやすさを園全体での追及
- ICT 機器の効率的な活用による業務の軽減

具体的な取組
- 一人一人が自身の超過勤務時間の把握し勤務時間に対する意識を高め，計画的な業務改善を目指し，超過勤務時間の短縮や年休取得につなげる。
- ICT（アプリ）を活用したアンケート回答や弁当注文集計、欠席連絡、プール時の健康調査など

（取組結果を検証する）各種指標
・年休取得状況、超過勤務状況
・働きやすさついてのヒアリング結果

中間評価

各種指標結果
・年休取得、超過勤務については管理職以外はほぼ良好な状況である。
・ICT 活用の効果はほぼ去年並み。
・働きにくさについては意見がなかった。

自	分析（成果と課題）

己評価	・ほぼ目標は達成できている。
	分析を踏まえた取組の改善 ・その時々の課題に対して、これまで同様に対処していく。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・年休取得状況、超過勤務状況 ・働きやすさついてのヒアリング結果
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 先生方の働き甲斐があってこその幼稚園だと思うので、管理職を含め、無理のない働き方をしながら熱意をもって保育に当たってほしい。 幼稚園の安全という面で、セキュリティの改善は働き方にも関連していくのではないか。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果 ・年休取得、超過勤務については管理職以外はほぼ良好な状況である。 ・ICT 活用の効果はほぼ前期並み。 ・働きにくさについては意見がなかった。	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ほぼ達成できているが、時間等ばかりでなく、働きがいについて一人一人が向き合っていくべきだと思われる。 働き方に関連するのではないかと意見をいただいたセキュリティ機器の改善については、進めることができなかった。
	分析を踏まえた取組の改善 園全体として取り組むことも大切だが、一人一人の充実というところに目を向けていきたい。 原ら気安さという点でも、セキュリティ機器について改善に向かうように働きかけていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 働き方改革がかえって先生方の働きにくさにならないように、みんなが働きやすい環境を引き続き保っていってほしい。